巻頭エッセイ

政治家と漢字力

野村雅昭

少し前に，「老人力」(1998) ということばが流行語になったことがある。作家の赤瀬川原平氏の造語によるものだ。これがはやった理由は，「老人」と「力」という一見相反する要素が結合することによって生ずる奇妙な感覚がおもしろがられたためだろう。マイナス要素である，物忘れ，ぼけなどに潜む未知の力が老人力なのである。ミスマッチングの魅力と言ってよいかもしれない。このミスマッチに近い「○○力」の系列には，「鈍感力」(2007) などがある。

ところで，今年になってまた「○○力」がはやっているらしい。8月中に出版された書籍の名にも，「煩悩力」「演説力」「逆境力」「田舎力」などがあるということだ (朝日新聞，2009. 8 .28)。今年話題になったトップは，自民党が衆議院選挙のマニフェストに掲げた「責任力」である。麻生前首相の造語ではなさそうだが，同氏の口から発せられたのは記憶に新しい。そのあいまいさの故かどうか，自民党は惨敗を喫した。

これらが造語として不安定な感じを与えるのは，意味的なミスマッチングのせいだけではない。「○○力」の「○○」の名詞としての性格にも原因がある。もともと「○○力」には，「影響力」「決断力」「実行力」「破壊力」「耐久力」など，○○に「する」がついて動詞になるものが圧倒的に多い。もっとも，「する」がつかない名詞が来ることがないわけではなく，「原子力」「政治力」「精神力」などは，辞書にも載っている。しかし，初めて聞く「○○力」がこの「する」類である場合は，それほど抵抗感はない。「老人力」「責任力」に一瞬たじろぐのは，そのことが関係している。

麻生前首相の人気が傾きはじめたのは，去年の11月ごろだという。「未曾有」「踏襲」「頻繁」などの語の読み間違いがマスコミで大々的に取り上げられた。今回の選挙の敗北がそのせいであるとするのは言い過ぎだが，少なくとも政治的な信頼感が失墜するきっかけになったことは否定できない。このニュースは中国のマスコミでも盛んに取り上げられたそうだが，はたして中国でも漢字が読めないということは，日本と同じように人格的な欠陥に等しい扱いを受けるのだろうか。そうだとすれば，漢字社会における「漢字力」の欠如は恐るべき結果を招くと言える。

「語学力」という言い方はかなり昔からある。「英語力」にも，抵抗はほとんどない。それに比べれば，「漢字力」は最近のような気がする。2007年には「言語力育成協力者会議」なるものが文部科学省に設置されている。このころから言語に関する能力を「○○力」と言い習わすことが普通になったようだ。「日本語力」なども耳にするようになった。漢字の能力検定がピークに達したのも，このころだ。「漢字力」にしても「英語力」にしても，「○○を使いこなす能力」ということである。これらの○○には「する」はつかないが，不自然ではない。

麻生太郎氏の演説は，決してへたではない。委員会などでの野党議員との応酬も聞きごたえがあった。その前の二人の総理大臣よりも，迫力があった。それがいくつかの漢字の読み間違いで，とんでもないことになってしまった。わたしたちの言語使用能力に対する評価は，いちじるしく文字言語に傾いている。漢字力に優れていなくても，談話力や講演力で評価される政治家を，わたしたちが指導者として持つことができる日はいつ訪れるだろうか。

（のむら　まさあき・早稲田大学名誉教授）

〈特集〉 英語の語彙

大学入試に必要な語彙

武田　一

■語彙問題の流行

英語が好きになるきっかけとして，文法が理解できるようになったことをあげる生徒が多くいます。文法の問題が解けるようになって，英語の勉強がおもしろくなってきたというのです。その反面，単語を覚えることにおもしろみを覚える生徒は少ないと思います。受験で出題される語彙の問題は，応用力を問う文法問題と違って，その単語を知っているかどうかという知識量勝負なので，知的なおもしろみにかけるからだと思われます。それに加えて，なにしろ覚えなければならない数も圧倒的に多いので，覚えたことが，即，テストで報われるといった達成感にひたりにくいということもあると思います。

高校の教師としては，文法のようにルールを覚えれば解ける問題の方が，受験生にとって良心的なのではとも思ってしまいますが，最近の入試では，語彙の問題が流行っています。英検をみても，独立した文法問題が出題されるのは2級までで，準1級からは語彙力を問う問題になっています。

■実際の入試問題を見てみると…

では，その問われ方ですが，法政大学で出題された長文問題中の語彙を問う問題を取り上げて，出題傾向を分析してみます。

①同意語を知っていれば，本文を読まなくてもできる問題

(ア) providing
(a) supplying　(b) delivering
(c) catering　(d) equipping

(オ) fundamental
(a) radical　(b) temporary
(c) hostile　(d) basic

これらの問題は，本文をみなくても正解にたどりつくことができます。

providing は「供給する」という意味ですから，supplying が同じだということがわかります。また，fundamental＝basic も，知っていればそのまま正解できる問題です。

②複数の意味があり，本文でどういう意味で問われているのかを考えさせる問題

(キ) enterprise
(a) business　(b) labor
(c) company　(d) exploration

enterprise には「企業，会社（＝company）」という意味と「事業，計画」とがあります。

問題文をみると…

Farming used to be primarily a family (キ) enterprise and to a large extent still is in most countries.

「農業というのは元々家族経営で行われてきたものであり，大方，いまでもたいていの国に，そ

ういう形で存在している。」とあり，選択肢には，(a) business　(c) company とありますが，農業が，かつて「会社」であったと考えるのは合点がいきません。ですから，「事業，職業，仕事」という意味のある business を選びます。

③意外な意味があり，本文ではどういう意味で問われているのかを考えさせる問題

(コ) era	
(a) tribe	(b) cycle
(c) style	(d) period

(コ) era の問題では，選択肢 period にある「終止符」「期間」の他にある「時代」という意味が問われています。

④本文の内容をふまえ，言っていること，伝えたいメッセージは同じだと考えさせる問題

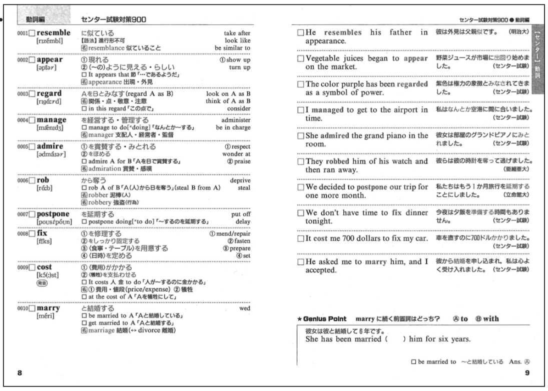
(ウ) reliable	
(a) stable	(b) expensive
(c) insecure	(d) doubtful

(ウ) reliable の問題は，reliable「頼りになる」⇒「確かな」となることから，stable「安定した」を選びます。ただ，もともと stable には「(性格などが) 信頼できる」という意味もあるのですが，ここまで覚えている受験生は少ないと思います。みんな日本語のレベルで考えて，文脈に沿った拡大解釈をするクセをつけて合格点につなげていっているのが現状だと思います。

これらの語彙問題の出題傾向の分析結果から導き出せる，語彙の学習に不可欠な，理想の単語集とはどのようなものでしょうか？

■理想の単語集とは？

理想の単語集とは，頻度のある単語を紹介しているのは言うまでもないことですが，見出し語を覚えるだけでなく，同義語への言い換えの充実と



動詞編　センター試験対策900

0001	□ resemble [rɪzémbl]	に似ている 【語法】進行形不可 名 resemblance 似ていること	take after look like be similar to
0002	□ appear [əpíər]	①現れる ②(〜の)ように見える・らしい □ It appears that 節「…であるようだ」 名 appearance 出現・外見	① show up turn up
0003	□ regard [rɪgɑ́ːrd]	AをBとみなす(regard A as B) 名 関係・点・敬意・注意 □ in this regard「この点で」	look on A as B think of A as B consider
0004	□ manage [mǽnɪdʒ]	を経営する・管理する □ manage to do[×doing]「なんとか〜する」 名 manager 支配人・経営者・監督	administer be in charge
0005	□ admire [ədmáɪər]	①を賞賛する・みとれる ②をほめる □ admire A for B「AをBで賞賛する」 名 admiration 賞賛・感嘆	① respect wonder at ② praise
0006	□ rob [rɑ́ːb]	から奪う □ rob A of B「A(人)からBを奪う」(steal B from A) 名 robber 泥棒(人) 名 robbery 強盗(行為)	deprive steal
0007	□ postpone [pousṫpóun]	を延期する □ postpone doing[×to do]「〜するのを延期する」	put off delay
0008	□ fix [fíks]	①を修理する ②をしっかり固定する ③(食事・テーブル)を用意する ④(日時)を定める	① mend/repair ② fasten ③ prepare ④ set
0009	□ cost [kɔ́(ː)st] 発音	①(費用)がかかる ②(犠牲)を支払わせる □ It costs 人 金 to do「人が〜するのに金がかかる」 名 ①費用・値段(price/expense) ②犠牲 □ at the cost of A「Aを犠牲にして」	
0010	□ marry [méri]	と結婚する □ be married to A「Aと結婚している」 □ get married to A「Aと結婚する」 名 marriage 結婚(↔ divorce 離婚)	wed

8

センター試験対策900 ● 動詞編

□ He resembles his father in appearance.	彼は外見は父親似です。（明治大）
□ Vegetable juices began to appear on the market.	野菜ジュースが市場に出回り始めました。（センター試験）
□ The color purple has been regarded as a symbol of power.	紫色は権力の象徴とみなされてきました。（センター試験）
□ I managed to get to the airport in time.	私はなんとか空港に間に合いました。（センター試験）
□ She admired the grand piano in the room.	彼女は部屋のグランドピアノにみとれました。（センター試験）
□ They robbed him of his watch and then ran away.	彼らは彼の時計を奪って逃げました。（亜細亜大）
□ We decided to postpone our trip for one more month.	私たちはもう1か月旅行を延期することにしました。（立命館大）
□ We don't have time to fix dinner tonight.	今夜は夕飯を準備する時間もありません。（センター試験）
□ It cost me 700 dollars to fix my car.	車を直すのに700ドルかかりました。（センター試験）
□ He asked me to marry him, and I accepted.	彼から結婚を申し込まれ，私は心よく受け入れました。（センター試験）

【センター】動詞

★Genius Point　marry に続く前置詞はどっち？　Ⓐ to　Ⓑ with

彼女は彼と結婚して6年です。
She has been married (　　) him for six years.

□ be married to　〜と結婚している　Ans. Ⓐ

9

受験で狙われる語法の掲載，また，それらを覚える工夫があるということではないでしょうか。

『ジーニアス英単語2200』を作るにあたり，少しでも，単純な単語の暗記作業からの脱却を考え，①②③タイプの設問対策として同義語の記載を充実させ，レイアウトも見出し単語の左端に置く工夫をしました。これは，覚えた見出し語を，左端に書かれた同義語から言えるかチェックしやすくしたもので，より実践的であると思います。

さらに，suggest と propose のような同義語を並べて見出し語として掲載することもなるべく避けました。同義語を1ページ後ろに置くことで，あれ？同じような意味の単語を見たことがある…という脳へのやさしい働きかけを狙いました。

また，同義語の微妙なニュアンスのちがいや関連単語を参考として掲載し，狙われるコロケーション，語法など使い分けが必要なものは，下段のコラムで扱っています。その結果，頻度別で並べているだけの単語集と異なり，いつまでもめくると発見のある単語集になったと思います。

「早く始めて，長く続ける」。語彙の増強のための学習に近道はありません。“見出し語→日本語”という一方向の暗記にとどまらず，“見出し語⇔同義語”という英語から英語を連想できる力をつけ，受験のためだけの英語からステップアップし，生徒たちが英語をツールに，広く大きな世界へジャンプアップしていって欲しいと思います。

飽きのこないアイディア満載の『ジーニアス英単語2200』が，英単語学習を楽しく思えるようになる一助となればと心より願ってやみません。

（たけだ　はじめ・埼玉県武南高等学校教諭）

〈特集〉
英語の語彙

授業に英語の面白みとモチベーションを

クイズ形式によるボキャブラリーの導入

小山内　大

■クイズで学ぶボキャブラリー

私は，7年前から理工系大学で一般教養科目として英語を教えていますが，1コマ90分の中で学生の興味と集中力を失わせない，そしてさらに彼らのモチベーションを引き上げるような授業を行うことに心がけて来ました。

個々の教員の方々も日々様々な創意工夫をされていると思いますが，私が授業の中で実践しているひとつが，アメリカに16年滞在した経験から，授業の内容以外の肩肘を張らない生活レベルでの英語表現を，クイズ形式で紹介することです。今回は，この秋に大修館から出版予定の『〈クイズ〉英語生活力検定2』というタイトルの拙著からの抜粋をもとにして，授業での使用の方法をご紹介します。

■生活に根ざしたボキャブラリー

クイズで紹介する内容は学生の実生活に直接関係のある分野で，学生の興味に直結したものです。例えば，大学生ならデートの相手をどのように表現するのかとても興味があるはずです。

(例)「わたし 面食い だからイケメンじゃなくちゃね」
I go for (　　), so my date has to be good looking.
① face　② looks　② mask

正答は②です。3つの選択肢の中から正解を選ぶ問題ですが，平均的な学生の英語の知識ではどれを選ぶべきか迷う問題です。そして解答を知れば「オモシロい！」と自然に思うはずです。

(例)「今の彼 ふっちゃった，もともとタイプじゃなかったのよねぇ」
I (　　) him. He was not my type from the beginning.
① threw　② dumped　③ rejected

正答は②です。dump は「ドサッと捨てる」という意味で，学生達にはダンプカーという和製英語で馴染みのある言葉です。dump には付き合っている彼または彼女をドサッと捨てる，つまり交際の相手を「ふる」という意味があり，アメリカ人の若者が好んで使う表現であることを説明すると，学生達の興味を引きながら dump という単語を覚えてもらえます。

お金は学生に限らず誰にとっても身近な話題です。日々の生活に直結する事柄ですが，学生達にはほとんど馴染みがない表現が多いのです。

(例)キャッシュ・カードを使う時には暗証番号が必要ですね，では 暗証番号 を英語で言うと次のどれでしょう？
① SIN number　② MIN number　③ PIN number

③が正解ですが，本書ではその解説として PIN number は Personal Identification Number「個人識別番号」の略であることをまず説明しています。私は PIN number を説明する際には，学生証や身分証明書の番号も意味すること，またアメリカの大学では PIN number を電話で入力すると，教務課へ行かなくても，自分の成績が聞けるシステムがあることなどを付け加えて説明し

ています。

残念ですが，高校までの 6 年間英語を学んできた学生たちに，日常生活についての基本的なボキャブラリーがほとんどないことは，学校教育に携わっている方には周知の事実であると思います。本書では，受験のための英単語しか知らない学生たちに，英語圏での実生活に直結した基本的なボキャブラリーを紹介しています。

(例)英語でも「携帯電話」のことを「携帯」のように省略して言うのが一般的ですが，さてどのように言うのでしょう？
① carry　② cell　③ pod

答えは②ですが，本書の解説には「cell は cellular phone の略，cell phone と呼ぶ場合もあります。他に mobile (mobile phone), hand phone, celly などの呼び名もあります」と説明しています。学生達は英語でも「携帯」のように省略して呼ぶことに驚きを覚えることでしょう。

(例)「目やにがついているよ」
You have (　　) in your eyes.
① cheese　② gum　③ butter

答えは②です。gum は「弾力性があってべとべとするもの一般」を表す言葉で，学生たちは chewing gum「チューイングガム」からその意味がピンと来ると思います。また eye mucus（ミューカス）という言い方もあることを解説時に付け加えるとよいと思います。

■一般常識としてのボキャブラリー

本書はまた，学生が一般常識として知っておくべき環境問題などの自然・社会現象や，インターネット用語，基本的な理科・科学に関する表現なども扱っています。

(例)「ちょっと難しいですが，京都議定書を英語で言うと次のどれでしょう？」
① the Kyoto Memorandum（メモランダム）
② the Kyoto Protocol（プロトコール）
③ the Kyoto Agreement

正答は②です。protocol は条約や協定の「合意・規約・議定書」を意味します。学生には memorandum と agreement の意味を同時に説明するとボキャブラリーが増えます。

(例)太陽に近い順から太陽系にある 8 つの星を並べてみましょう。
The Sun ➡ Mercury ➡ (❶) ➡ Earth ➡ (❷) ➡ (❸) ➡ (❹) ➡ Uranus ➡ (❺)
① Neptune　② Saturn　③ Venus　④ Jupiter　⑤ Mars

正答は ❶=③ Venus，❷=⑤ Mars　❸=④ Jupiter　❹=② Saturn　❺=① Neptune

この問題は学生の理科の知識と英語の知識を同時に試す問題です。理工系の学生には特に受けがよいようです。ひととおり答えを説明した後に，「太陽系」「宵の／明けの明星」「北極星」「流れ星」など天体や宇宙に関する名称を英語でなんと言うか，さらにクイズ形式で出題してみると学生の興味は一層深まると思います。

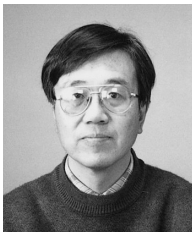
本書は最近のアメリカで実際に使われている自然な口語表現を基本として書かれています。辞書には載っていても，実際ネイティブがほとんど使用しないような英語表現はできるだけ避けています。ですから，先生方が口語的な表現を学生に紹介したい時には参考文献としてお使いになることも可能ですし，先生方自身の予備知識としてもご使用になれると思います。授業の間の息抜きとして，学生の興味を引く道具として，また単語や語法・文法の説明の際に，付け加えるべきインフォメーションとしてご使用になることをお奨めします。

（おさない　だい・東京電機大学准教授）

〈特集〉

英語の語彙

「英語らしい英語」を使うための語彙



佐藤誠司

筆者はかつて中学・高校・大学受験予備校の教壇に立っていましたが，当時は自分が教えている英語に対する問題意識をあまり持っていませんでした。しかしその後，自作の英文や試験問題をネイティブスピーカーにチェックしてもらう機会が増えるにつれて，学校英語や受験英語と実際の英語との隔たりを実感し，「英語らしい英語」を指導することの大切さに思い至りました。

■「英語らしくない英語」とは？

最もわかりやすいのは，（一部の）大学入試問題の英語でしょう。たとえば，筆者の自前の大学入試問題データベースで「関係代名詞の but」を検索すると，最近10年間程度に限っても 4 件ヒットします。次の整序作文問題はその 1 つです。

「あなたの決心を称賛しない者は，私たちのなかにはほとんどいない。」

There [your, of, few, but, us, determination, admire, are].（1999年 T 大学文学部）

念のため何人かのネイティブに完成した英文（There are few of us but admire your determination.）を見せましたが，これを正しい英語と認めた人はもちろん一人もいませんでした。この種の不自然な英語は，残念ながら今でも大学入試問題の中に時折見られます。

学校英語でも，学習の便宜のために「花に水をやりなさい」を（Water the flowers. でなく）Give water to the flowers. と英訳したり，現在分詞の限定用法を説明する際に a running boy のように示したりするのも，英語圏で実際に使われている英語から見れば問題があります。

あるいは，This is a proverb whose meaning I don't know. のような文はどうでしょうか？筆者の経験では，この文に抵抗を感じるネイティブは少なくありません。「物（proverb）の後ろに whose を置くのは不自然だ」という理由からです。そこで「より自然な文に直してください」と頼むと，たいてい I don't know the meaning of this proverb. という答えが返ってきます。

このように「英語らしい英語」は文法・作文の指導とも深く関連していますが，ここでは「語彙」の面から「より自然な英語」の指導方法を考えてみたいと思います。

■使用頻度に対する意識

より自然な語彙を使えるようになるためには，「使用頻度の高いものを優先的に覚える」という意識が欠かせません。しかし，大学受験対策の単語・熟語集の多くは，この観点を無視しています。たとえば筆者は高校生の頃，ベストセラーだった本で次の 2 つの「熟語」を暗記しました。

consist of 〜 「〜から成る」

consist in 〜 「〜にある［存する］」

入試対策という観点からは，この of と in の差が（当時は）重要だったかもしれません。しかし実際の使用頻度には格段の差があり，consist in は高校生には不要でしょう。あるいは see / do the sights（観光する）の場合も，実際の使用頻度から言えば see だけを覚えておけば十分です。

■インターネット検索の利用

ある語彙や表現が実際にどの程度の頻度で使われているかは，インターネットで検索すれば容易にわかります。試みにGoogleでsee the sightsとdo the sightsを検索すると，それぞれ1,130,000件と62,400件ヒットしました。約18対1の割合です。

もう一つの例として，till / untilを挙げてみます。『ジーニアス和英辞典』には「《米》《英》とも今は一般にuntilが好まれる」とあります。Googleで検索すると，やはりuntilの方がtillの2倍近くヒットします。このようにネット検索は，語彙の使用頻度を知るのに役立ちます。

■教壇での指導例

「英語らしい英語」を生徒に意識させるための語彙や表現の選び方の例を，以下に示します。

例1　一人で喫茶店に入り「コーヒーをください」と注文するとき，一番自然な表現は？

① Give me a cup of coffee, please.

② A cup of coffee, please.

③ Coffee, please.

説明　一番自然な言い方は③。①は「コーヒーをただでください」というおかしな意味になる。②は，一人で2杯のコーヒーを一度に注文する人はまずいないから，わざわざ「1杯の」と言う必要はない。二人で喫茶店に入って二人ともコーヒーを頼むときは，Two coffees, please. でよい。Two cups of coffee, please. でも間違いではないが，コーヒーはふつうカップで飲むものだから，容器を特定する必要はない。注文するのがワインなら，two glasses / bottles of wineと区別する方がよい場合もある。

例2　「君にこのチケットをプレゼントしよう」の英訳として適切なのは？

① I'll present you this ticket.

② I'll give you this ticket.

説明　正解は②。presentは「贈呈する」という改まった語であり，親しい人に物をあげる場合はgiveを使う。なるべく基本的な語を使うよう心がけよう。

例3　「私はカラオケで歌を歌うのが大好きです」を英訳すると？

説明　正解例は，I love singing karaoke.「カラオケを歌う」と言えばよい。「歌う」ものは「歌」に決まっているから，singing songsのように言う必要はない。言わなくてもわかる情報は省いて，シンプルに表現しよう。

大修館書店から12月発売予定の拙著（小池直己氏と共著）『英語ネイティブ度判定テスト』にこうした例を多数収録しているので，参考にしていただけると幸いです。

■教師の意識について

筆者は仕事柄，多くの出版社の編集担当者と接してきました。その場で筆者が「中学・高校生向けの参考書は，もっと現実の英語を反映したものにすべきではないでしょうか？」と質問すると，しばしば次のような答えが返ってきます。

「そうしたい気持ちはあるのですが，たとえば文法参考書の記述の一部をカットしたりすると，学校現場の先生方から『なぜこの項目が入っていないのか』といった苦情が来る場合があるので，大胆な改訂に踏み切れないのです」

その背景としては，大学受験で関係代名詞のbutのような英語が今でも出題されていること，あるいは（筆者自身がそうであったように）教師自身の勉強不足という面も否定できません。生徒に「自然な英語」「英語らしい英語」を身につけさせることは英語教師の責任の一つですが，それがどの程度実現できるかは，一人一人の現場教師の意識に左右される面が大きいように思います。

（さとう　せいし・㈲佐藤教育研究所主宰）

〈特集〉
英語の語彙

教科書語彙と大学入試

金谷 憲

■大学入試があるから？

高校の英語教師にとって，確かに大学入試が目の前にぶらさがっていて，自由に教科指導に取り組みにくい雰囲気である。

しかし，「大学入試，大学入試」と騒ぐ割には，具体的な入試研究（？）は十分には行われていない。学校の授業でどこまでやれば，大学入試に対しての準備をしてあげたことになるのか，を実証的に見たデータはあるのだろうか。

私と仲間が大修館より最近出版した本，『教科書だけで大学入試は突破できる』は，データを元に，高校の通常の授業で，どのくらい大学入試に対応できるかを示そうとしたものである。

大学入試への対応で，教師も生徒も最も心配するのが語彙のことである。「知らない単語が入試に出たらばどうしようか」など，もっともな心配と言えば言える。

そこで，とにかく多めに語彙を与えなければならないという思いに駆られて，単語集などを学校で採択し，教科書を使った授業とは別に出題範囲を決めた小テストなどを行い，入試対策をしている高校はかなりの数にのぼる。

■教科書語彙でどこまでできる？

しかし，闇雲に単語集に奔るまえに，語彙について，大学入試に対応するには少なくとも次の3つのことを具体的に考える必要がある。

①教科書の語彙では入試はどのくらいカバー出来るのか。
②教科書の語彙は生徒にどのくらい定着しているのか。
③教科書以外の教材（例えば，単語集）での語彙学習ではどのくらいの語彙が定着しているのか。

上述の近刊はこのうち①に具体的なデータを提供しようとしたものである。

ある教科書を使って指導して，その教科書に載っている語彙の全てが身についているとして，入試問題を実際に解いてみて，どのくらいできるかを実験してみたものである。

実験に用いた教科書は次の通りである。

Departure Oral Communication I Revised
Genius English Course I Revised
Genius English Course II Revised
Genius English Readings Revised
Genius English Writing Revised

このような教科書を使って，英語Ⅰ，英語II，OC，リーディング，ライティングを学校で教えたと仮定したわけである。

この5冊に加えて，7種類の中学教科書に載っている語彙を加えて解答実験を行った。

センター試験を含み，国立大（東大，京大など），私立大（早大，慶大など，複数学部に及ぶ），24の大学学部について2007年度の入試問題中，長文読解問題を調べてみた。

まず，入試問題の語彙と，教科書語彙の重なりの度合い（カバー率と呼んでいる）を出した。その後，教科書語彙にない単語が入試問題にあった

場合，それを黒く塗りつぶして，そのままで問題が解けるかどうか実際にやってみたわけである。

黒塗りの単語があったとしても，それで即解けないというわけではない。設問に関係のないところに未知語があっても，問題には答えられることがあるからである。

結果は以下のようになった。

○教科書のカバー率は概ね95％
○調査した大学，学部など24の75％にあたる18で解答可能率が70％を越え，東京大学を含む，15大学学部で80％を越えた。

解答可能率については，立教大学（文），駒澤大学（文・法・仏・教・医療健康）が100％，東大99.5％となって，教科書語彙でほとんど満点がとれることがわかった。ただし，慶大（理工）の44.5％，京大55.5％，早大（教育）57.0％など，解答可能率がかなり低い大学もあった。

この結果から，教科書語彙は入試にとってかなり有効なものであることがわかる。各教科70点もとれば，通常まず合格だろう。調べた大学学部の多くで解答可能率が7割を越えていることから，教科書語彙の有効性が理解できるだろう。もちろん，解答可能率の低い大学学部もあるが，それでも合格ラインまでもう一歩というところである。

教科書以外の単語集などに行く前にまず，教科書のマスターを目指すのが，入試対策として，少なくとも語彙の面からは，大切であると言える。

■定着がポイント

ただし，ポイントは「定着」である。教科書語彙がかなりの有効性をもっているとしても，それが身についていなければ何にもならない。このことは単語集についても言えることである。

どのくらい定着しているかは，先に挙げた３つのポイントの②（あるいは③も）を検証してみなければならない。高校では教科書語彙がどのくらい生徒の頭に入っているか，確認しているだろうか。もし，定着率が良ければ，その先，語彙を更に増やすために単語集など買い求めさせることもよかろう。しかし，定着率が低ければまず，教科書語彙の定着率の向上を図るのが第１だろう。

■定着への工夫

教科書語彙を定着させるためには，繰り返して教科書を復習させる工夫をすることが，入試対策として役に立つ。教科書は一度「読んだら」，もうそれで終わり，という指導ではいけない。「一度読んだ」と言っても，教科書の内容がぼんやりと日本語で入っている程度という場合が多いのではないだろうか。語彙が身につくには，教科書本文の英語が頭に入っている必要がある。繰り返して教科書を読む指導が必要である。

しかし，単純な繰り返しでは生徒はついては来ない。違う角度から読んだり，読んだ内容を英語でまとめたり，内容についてのコメントを英語で書かせるなど，いろいろな工夫をしてはじめて，英語が頭に残ってくるものだろう。

■文法指導にも入試研究が必要

今回は，語彙を中心として述べてきたが，文法事項についても同じ，あるいはそれ以上のことが言えることがわかった。高校では，大学入試の出題率の多いものに焦点をあてているかどうかは定かではない。実は，ほとんど入試には出題されていない事項にもかなりの時間を費やしていることがあり得る。高校で十分に能率のよい入試対策をしているかどうかはかなり怪しい。

■結び

気持ちの上だけで「入試があるから，入試があるから」と焦るのではなく，現実を十分押さえてそれに対する対策をしてゆくことが今後何より望まれることである。

（かなたに　けん・東京学芸大学教授）

〈特集〉 英語の語彙

指導に役立つ語彙リスト紹介

中條清美

語彙指導は「基本語彙」と「専門語彙」という２種類の語彙リストで対応すると効率的であると言われます。「基本語彙」とは，「どの分野にも広く出現する語彙」，「専門語彙」は「ある特定の専門分野に顕著に多く現れる語彙」のことです。

一般的に2,000-3,000語程度の基本語彙を学習した後，学習者の興味や学習目的に応じてある特定分野の専門語彙を指導すると学習効率が高まると言われます。高校では，２種類の語彙のうちおもに「基本語彙」を身につけることに重点が置かれることが多いので，本稿では，高校の英語教育に役立つ基本語彙リストを中心に紹介します。

基本語彙リストの作成には２つの方法があります。ひとつは，実際に書かれたり話されたテキストを広範囲の分野から大量に集めたBritish National Corpus（BNC・１億語）のようなコーパスから出現頻度の高い語彙を選定するというもので，最も一般的な方法です。

一方，中・高の学習者は将来どの方面に進むかわからないため，英語教科書には「どの分野にも役立つ」と思われる語彙が使用されています。したがって，英語教科書を分析した語彙リストも一種の基本語彙と言えます。また，教科書を通して学習者が習得する語彙を知ることは効果的な語彙指導に必要不可欠です。

以下では，基本語彙リストを中心に，Webから入手し易く，指導や教材作成にすぐに使えるという観点から，１）大規模コーパスに基づく語彙リスト，２）教科書コーパスに基づく語彙リスト，３）その他多様な語彙リストを紹介します。

■大規模コーパスに基づく語彙リスト

次の①から④は大規模コーパスに独自の処理を施して作成されたものです。どの語彙リストも利用し易いように「英文の語彙レベルチェック」機能が付いています。先生方が作られた教材やテストの英文テキストを貼り付けて送信すると，それぞれの語彙リストに基づいて1,000語単位で各単語や英文の語彙レベル（難易度）を知ることができます。たとえば2009年度センター試験の語彙の95％はBNCの上位3,000語でカバーできることなどがわかります。

①JACET8000

大学英語教育学会基本語改訂委員会がBNCをもとに「日本の英語教育の現状を配慮して」選定した8,000語です。JACET 8000 LEVEL MARKER（http://www01.tcp-ip.or.jp/~shin/J8LevelMarker/j8lm.cgi）を利用すると各単語のレベルを８段階に分けることができます。

②SVL12000（標準語彙水準12000）

出版社のアルクがBNCから，日本人学習者にとっての有用性や重要性を考慮して選定した12,000語です（http://www.alc.co.jp/goi/PW_top_all.htm）。Word Level Checkerというプログラムが染谷泰正氏のページ（http://www.cl.aoyama.ac.jp/english/newSite/wlc/index.html）より使用可能です。

③BNC-20

P. NationとT. Cobbが作成したBNCの頻度上位20,000語です。T. CobbのVocabProfile（http://www.lextutor.ca/vp/bnc/）を使うと語

彙レベルを判定することができます。

④GSL（General Service List）とAWL（Academic Word List）

GSLは英語の教授・学習のために選定された最も普遍性があるとされる2,000語です（West, 1953）。AWLはA. Coxheadが学術文献コーパスに頻出した570語を選定したもので，大学生が一般教養科目を理解するために必要な基本語彙を選定しています。最初にGSLの2,000語を，次にAWLの570語を学習するという語彙指導法が広く知られています。また両者を利用したP. Nationの語彙レベルチェックプログラムRange（http://www.victoria.ac.nz/lals/staff/paul-nation/nation.aspx）は世界中で使われています。

■学校英語教科書に基づく語彙リスト

⑤小学校関連の語彙リスト

新学習指導要領に合わせて2008年に公表された「英語ノート（試作版）」の語彙のリストと，「英語ノート」が公表される以前に教科書会社から小学校英語活動用に作られたテキスト5シリーズに使用された語彙のリストが筆者のホームページの「教育・研究資料（http://www5d.biglobe.ne.jp/~chujo/）」よりダウンロードできます。

⑥中英研研究部の中学校教科書語彙リスト

東京都中学校英語教育研究会の研究部で，「語いと英語教育」に関する研究実践の一環として，平成14年度から平成18年度に使われている教科書の全ての使用語彙が提供されています。簡単な登録でダウンロード（http://www.eigo.org/kenkyu/）できます。

⑦高校教科書の語彙リスト

2006年度版高校英語教科書35シリーズ95冊の使用語彙リストが個々の教科書シリーズの詳細な語彙数，語彙レベルとともに筆者ホームページ（http://www.5d.biglobe.ne.jp/~chujo/data/koukoutext.pdf）より利用できます。

⑧大学入試の語彙リスト

難関大学の入試には中・高の教科書語彙だけでは十分といえないため，『ジーニアス英単語2200』などの入試頻出英単語の語彙を補完する必要があります。2008年度に出題された難関大学入試とセンター試験の語彙リストを筆者ホームページ（http://www.5d.biglobe.ne.jp/~chujo/）で利用できます。

■多様な語彙リスト

⑨理科系の語彙

COCET3300は全国高等専門学校英語教育学会が精選した「理工系学生にとっての必修英単語3300語」です。書籍版のほか，これらを収録した英単語学習オンライン教材「英語語彙学習システムCOCET3300」（http://cocet.code.u-air.ac.jp/）が利用可能です。

⑩ESL教育用語彙リスト

指導に役立ちそうなWeb上の語彙リストのサイトとしてESL:Vocabulary:Listsがあり，160を超える語彙リストのリンク（http://iteslj.org/links/ESL/Vocabulary/Lists/）が付いています。

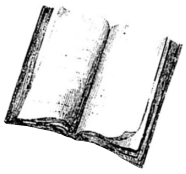
最後に，これらの語彙リストを利用する際の注意点として，見出し語の基準が，lemmaかword-familyのどちらを単位として作成されているかを考慮する必要があります。例えば，happyという見出し語には前者ではhappier，happiestという変化形が含まれ，後者ではさらにhappiness，unhappyなどの派生形も含まれます。③と④はword-familyリストで，その他はlemmaリストです。たとえば③の付属プログラムを使えば，2009年度のセンター試験に出た語彙の種類数はlemmaで1,167語，word-familyで860語となることがわかります。

以上，こうしたリストを活用して効果的な語彙指導を図っていくことが大切だと考えます。

（ちゅうじょう　きよみ・日本大学生産工学部准教授）

〈特集〉
英語の語彙

英和辞典の見出し語選定と重要度ランク表示



■英和辞典の見出し語数

『ジーニアス英和辞典』初版が刊行されたのは「コーパス以前」の1980年代後半だが，当時，英和辞典の見出し語数は，

①高校生用初級：３～５万
②高校生用中級：５～７万
③高校生用上級・一般用中辞典：７～12万
④一般携帯用小型辞典：６～８万
⑤大辞典：12万～

というのが，だいたいの「共通理解」だった。

現在も，大ざっぱにはこんなところだが，特に①に分類される辞書については多様化が進んで，その記述方針・性格の違いが大きくなり，収録語数はあまり問題にされなくなってきている。また，電子辞書の普及によって，特に一般用の辞典の様相が大きく変化し，④はほとんど電子辞書にその役割を譲り，⑤については，詳しい説明のあるタイプの大辞典と，説明は比較的簡単で多くの語数を収録するタイプのものとに分化した。

■ジーニアス初版の場合

小社『ジーニアス英和辞典』初版の編集は，「見出し語７万５千程度の中辞典」を作るという方針の下に進められた。しかし，原稿執筆を開始した1980年当時は，語の使用頻度についての資料はきわめて限られていたし，日本の大学関係者が利用できるコーパスもなかった。そこで，実際には，何冊かの既存の英英・英和辞典の見出しを参照して，必ず収録すべきと思われる語を選び出し，これを仮執筆リストとして執筆を始めた。これに，執筆・校閲の途中で，手分けして収集した資料カードなど他の資料によって見出しを追加していくという方法をとった。

原稿執筆は単純にＡから順にというわけではなく，重要語とそれ以外の語の記述の仕方をはっきり変えて辞書に濃淡をつけるという方針によって，まず一般語をＡ・ＢランクとＣランク以下とに分けて執筆にあたった。さらに機能語（助動詞・前置詞・接続詞・冠詞など）は別にして１人の人が担当し，また動物名・植物名など，「分野別」の執筆を行ったので，これら「別扱い」の語のリストを作って一般語リストからは除外する作業が必要だった。

パソコンもワープロもないころなので，こうしたリスト作成や執筆項目管理には膨大な手間がかかった。

こうした事情に加えて，校正の最後の段階まで見出し語の追加・入れ替えを行ったために，作業中は見出し語数を正確に数えることができなかった。本ができあがってから，あらためて人を頼んでカウントしたところ，７万５千をだいぶ超えていることが確認され，ほっとした記憶がある。

なお，ここでいう見出し語数は，「追い込み派生語」（例：形容詞の項目の末尾にある～ly，～ness），「分離複合語」（２語以上からなる複合語；例 table knife―ジーニアスでは table の末尾に～ knife の形で収録）を含めたものである。

■見出し語の重要度ランク

『ジーニアス英和』初版編集のときには，見出

し語の重要度によるランク決定のための資料もわずかしかなかった。例えば，Thorndike=Bahnhart の 3 万語の頻度資料というのがあったが，内容が古かったこともあり，主に非重要語の収録の参考にした。

重要語については，だいたい A ランク＝中学で学習する語，B ランク＝高校で学習する語，という考え方をとった。そのため，日本の英語教育の事情への配慮が必要なので，中学校教科書に現れる単語・イディオムについての資料（速川浩編；小社刊）や全英連編『高校基本英単語活用集』，および高校の英語教科書，さらに大学受験用の英単語集などを参考にした。しかし，最終的には，編者の英語教育の経験やバランス感覚に基づく判断によった部分もある。

『ジーニアス英和』の重要度ランクの語数と内容については，その後の20年で，改訂のたびに検討を加えてきたが，現在の『ジーニアス英和辞典〈第 4 版〉』（G4）では，コーパスによる調査を踏まえて，これまでで最大の変更を加えた。高校の教科書で扱う単語数や，大学受験で必要とされる語数の変化ももちろん反映されている。そのほかに，TOEIC 頻出の語彙，米英の生活語彙などの資料も参照した。

結果として，G4 では，A ランク約1150語，B ランク約3100語となっている（詳しくは『GCD 英語通信』No. 40（2006.11）の「見出し語のランク見直しについて」参照）。

■ジーニアス英和大辞典の重要度ランク

一方，『ジーニアス英和大辞典』の見出し語ランクは，大辞典というものの性格上，ほぼ純粋に頻度によって，最重要語 約3500語，これに次ぐ重要語 約5400語を選定した。大辞典の編集時にはコーパスが（後の G4 のときより小規模だったが）使えるようになってきていたために，これが可能になった。

英語が使用される一般社会での頻度を基にしているので，例えば，fighter，financing，fleet，flexibility，forum，foster のように，G4 では C ランク以下（4250語レベル以下）の語が大辞典では最重要語（3500語）に入っている場合がある。

ただし，コーパスに収録された資料の偏りに起因すると思われる頻度の差異は，他の資料によって調整するようにした。また，固有名詞については，日本での必要性の観点から「アジア重視」の方向で検討を加えた。英米の一般向けの大きめの辞典に収録されていない中国・朝鮮半島の人名・地名が，重要語にはしていないが，『ジーニアス英和大辞典』にはかなり入っている。

■収録語句数の数え方

辞典によって，その公称収録語句数の表示の方針は少しずつ異なっている。G4 で「見出しが 7 万 9 千」と言っているのは，上記のように，通常の見出し語・追い込み派生語・分離複合語を含んだものである。これに成句（イディオム）を加えて，「収録語句は 9 万 6 千」と表示している。

辞典によっては，語形変化の欄に記された規則変化の変化形を収録語句に含めていることもあるようだし，また，主に英英辞典では，用例中のやや固定的な言い回しを成句に準ずるものとして太字にし，これを entries として数えていることが多い。

異綴りや，成句については，単語に比べて数え方による数の違いが大きくなる。成句にはしばしば，さまざまなヴァリアントがあり，2 つ以上の同義の句が＝でつながって成句見出しになっていることがあるし，（ ）[ ] などで語の省略可能・入れ替え可能が示されていることも多い。これらについて，可能なヴァリアントを細かく数えていけば，実質的な収録語句数は，通常見出しとしてデータ上でカウントされる数よりかなり増えることになる。

辞典の収録語句数というのも単純ではない。

（大修館書店編集部）

〈特集〉
英語の語彙

小・中・高・大の語彙指導の連携を考える

西垣知佳子

新しい学習指導要領では外国語活動が必修化され，小・中・高の連携がこれまで以上に重視されています。しかし，学習指導要領には，連携に関する具体的な内容や方法は示されていません。そのような中，樋口他（2005），小池他（2008）のプロジェクトチームは，英語教育の連携に関する研究を独自に行っています。

一方，語彙力はコミュニケーション能力の基盤であると言われます。学習指導要領の改訂のたびに，扱われる語彙数の増減が話題となるように，語彙は英語教育の大きな関心事のひとつです。本稿では，語彙指導に焦点をあて，小・中・高・大の連携について考察します。

■教科書の語彙の現状

語彙指導の連携の方向性をさだめ，展望を得るためには，はじめに現在使われている中・高の英語検定教科書で扱われている語彙の現状をとらえておくことは有効でしょう。

明治から平成という時代変遷の中で英語教科書を見ると，最も顕著な変化のひとつに「異語数の減少」があると言います（小篠・江利川，2004）。戦後，昭和26年（1951）発表から，平成10・11年（1998・1999）告示までの学習指導要領に示された新語数の合計の上限は，6,800語から2,700語まで，学習指導要領の改訂のたびに徐々に減少してきました（伊村，2003）。そして新しい学習指導要領では，ゆとり教育の反省から，語彙数は増加に転じています。

筆者の研究グループでは，１人の学習者が中・高の教科書を通してどの程度の語彙力を習得することが可能なのか，「カバー率」という指標に基づいて調査を行いました。カバー率とは，中・高教科書語彙が，ある分野の英文テキストの何％の語彙をカバーするのかを表わすもので，教科書語彙の実用性を示す指標の１つと考えられます。

調査は，音声英語から１）TOEIC Listening Section，２）TOEFL Listening Section，３）大学留学チュートリアル，４）PBS（TV ニュース），５）VOA（ラジオレポート），６）サバイバル英語，７）映画の７分野，文字英語から１）TOEIC Reading Section，２）TOEFL Reading Section，３）海外大学入学案内，４）*TIME*（英文雑誌），５）*News for You*（ESL 英字新聞），６）生活案内〈住民向けホームページ〉，７）小説の７分野に対するカバー率を算出しました。

調査は，１人の学習者が現実に学ぶ教科書の可能性を考慮して，中・高教科書で採択率の高い教科書を１種類ずつ選んでデータベースを作り，そのカバー率を求めました。一般に，カバー率95％が英文理解の閾値とされます。したがって，実用になる英語力を目指すには95％のカバー率が達成目標ということになります。

調査の結果，教科書語彙がカバー率95％を超える分野は音声英語の中のサバイバル英語のみでした。このことは，多くの日本人が望む，海外旅行に出かけてサバイバルできるレベルの語彙力は，教科書の語彙を習得すれば身に付けられるということを示唆しています。

しかし，その他の分野では，音声英語と文字英語のいずれにおいてもカバー率は95%に到達しておらず，教科書語彙だけでは国際社会で通用する実用レベルの語彙力は身に付かないということもわかりました。

さらに興味深いことに，調査したカバー率の中で最も数値が低かった分野は，文字英語の中の「生活案内」でした。このことから，教科書の語彙は，生活語彙の分野が相対的に弱いこともわかりました。教科書における生活語彙の不足は，英語教育者からも繰り返し指摘されてきましたが（山家，1966；堀内，1976；松原，1987；鶴田，1991；毛利，2004），そのことがデータにおいても裏付けされました。生活語彙は必要に応じて補充する必要があると言えるでしょう。

こうした結果から，中・高教科書を通してサバイバル英語レベルの，どのような分野にも必要とされる汎用性の高い基礎的語彙が学べること，しかしながら国際社会で通用するレベルを目指すには語彙の補充が必要なこと，したがって大学入学後は学習者の専門性や関心に合わせて語彙を拡大すると効果的であろうという語彙指導の全体像が見えてきました。加えて，学習指導要領の趣旨を踏まえると，身近な生活語彙は小学校で導入すると良いであろうということもわかりました。

続いて，小・中・高の教科書やテキストの語彙がお互いにどの程度重複しているか，重なりの程度を調査しました。調査は中・高検定教科書（計66冊）と教科書会社から出版されている小学校英語活動用のテキスト（計14冊）に出現する語彙を収集して行いました。その結果，小・中・高の教科書・テキストで扱われる語彙の重複の割合は高く，扱っている語数の割には新しく習う語の数は少ないことがわかりました（中條・西垣・吉森・西岡，2007）。

語彙の定着には繰り返しが必要です。したがって同じ語に繰り返し触れることは大切です。それと同時に，知っている語の数を計画的に増やしていくことも必要です。連携を考える上で，新しく学習する語彙の数を計画的に積み上げることへの配慮も忘れてはならないでしょう。

こうした調査結果から，教科書の語彙によって達成できること，できないことが明確になり，語彙指導の連携において勘案すべきことが見えてきました。

■目標語彙数

以下では筆者の研究グループが行った研究結果に言及しながら，語彙指導の連携について「どのような語彙」を「どのくらいの数」指導するかという視点から考察します。

はじめに指導する語彙数の目安を設定しました。聞く・話す・読む・書く英語に対して，ターゲットとする英文の語彙のカバー率95%を達成するには7,000〜8,000語が必要であると言われます（中條・竹蓋：1994）。そこで，目標とする学習語彙数を8,000語とし，表1にはどの教育段階で，どのくらいの語数を指導するかについて，具体的な数字を盛り込みました。

表1　目標語彙数とその累積

学校教育段階	目標語彙数	累積語彙数
小学校	500語	500語
中学校	1,000語	1,500語
高等学校	2,000語	3,500語
大学・教養	1,500語	5,000語
大学・専門	1,500語	6,500語
大学院・社会人	1,500語	8,000語

小学校英語の目標語彙数は500語としました。これは，小学校英語の目標語彙数を500語前後としている研究者が多いこと（竹蓋・水光，2005；樋口他，2005；小野，2005；山田，2007），中国，韓国，台湾という近隣諸国の小学校英語の指導語彙数と比べても妥当な数と考えられる，というような理由からです。

500語を5，6年の2年間で学ぶのか，3〜6年の4年間で学ぶのか，学習期間は問題ですが，

語数の上では，500語くらいを導入できると実用になる英語力への寄与が期待できると考えます。

中学・高校の目標語彙数については，1970年代以降に告示された『学習指導要領』によると，学習する語彙数が中学校ではおよそ1,000語程度，高校では，「中学＋高校」の学習語彙数の合計が3,000語程度で推移していることから，中学校では1,000語，高校では3,000語から1,000語を引いた2,000語を目安としました。

続いて，大学・教養課程，大学・専門課程，大学院・社会人において1,500語ずつの語彙を増強し，8,000語を達成するように考えました。

■語彙リスト

学習目標語彙数が定まったところで，次に「どのような語彙」を指導するのか，具体的に指導する語彙の選定を行い，語彙リストを作成しました。筆者らが行った各学校教育段階での語彙選定の方法の概要は次の通りです。

小学校：小学校では身近な生活語彙を指導することに主眼を置きました。生活語彙は英語絵辞書に多く含まれることから，英語絵辞書30冊から作った絵辞書コーパス，さらに子どもの話し言葉コーパス，母語話者の語彙習得学年に関する資料などを統合し，統計的手法に基づいて小学生のための生活語彙500語を選定しました。

中学校：汎用性の高い基礎語彙を指導するため，中学校検定教科書18冊（6シリーズ×3学年）から語彙リストを作成し，4シリーズ以上の教科書に出現した語，552語をコアとして選定しました。これは，より多くの種類の言語資料に出現する語はより重要であるという「レンジ」の考え方に基づく選定基準です。

高校：引き続き汎用性の高い基礎語彙を指導するため，高校検定教科書48冊（16シリーズ×3種（英語Ⅰ＋英語Ⅱ＋リーディング））から語彙リストを作成し，12シリーズ以上の教科書に出現した1,089語をコアとして選定しました。

大学教養・大学専門：公開されているTOEFL，TOEICテスト問題と練習問題からコーパスを作成して，TOEFL用学習語彙600語，TOEIC用学習語彙640語をコアとして選定しました。

大学院・社会人：British National Corpusから学術語彙120語，ビジネス語彙100語をコアとして選定しました。

選定した語彙は，小学校を除いては，表1の目標語彙数の約半数で，大学院・社会人レベルではその一部にあたるものです。目標数に不足する分は，今後，小・中・高の語彙の重複を調整するなどの見直しを行いながら，追加する予定です。また，不足分の一部は教師が学習者の特性，興味などを考えて語彙を追加し，独自の語彙メニューを作成するのもよいと考えます。

以上の語彙リストは公刊されていて，またホームページ上でも公開されています（http://www.e.chiba-u.jp/~gaki/，http://www5d.biglobe.ne.jp/~chujo/）。

■語彙指導教材の開発

筆者の研究グループでは，選定した語彙を学習するための教材も併せて開発しています。中学と大学レベルでは，語→句→文と段階を追ってスパイラルに語彙を学ぶe-Learning教材を開発しました。小学生用には生活語彙を指導するための絵札と読札がそろったカルタ教材を作成しました。これらの教材は実際に授業で使われています。またPSP，iPod Touch，iPhoneを使った，遊びながら生活語彙を学べる携帯ゲーム機教材も試作しています。高校生用には，英語に併せて日本語訳が表示される日英パラレルコーパスを活用したデータ駆動型の語彙学習教材を開発中です。

■語彙リスト

最後に，上で選定した語彙リストの一部を紹介します。

〈小学校：生活語彙500の例〉

body	food & drinks
arm	apple
beard	banana
bone	beans
cheek	bread
chin	breakfast
ear	butter
elbow	cake
eye . . .	candy . . .
verbs	**adjectives**
bake	big
bite	busy
blow	clean
break	cold
catch	dirty
climb	dry
close	giant
cook . . .	good . . .

〈中学校：コアとなる語の例〉

weather & space	language & world
cloud	communication
earth	culture
moon	gesture
rain	language
sky	message
snow	peace
space	society
star . . .	speech . . .

〈高校：コアとなる語の例〉

abstract noun	verb
advantage	affect
behavior	avoid
courage	confuse
creature	continue
experience	develop
expression	influence
issue	protest
religion . . .	provide . . .

小・中・高の教科書とテキストの重複を調査した研究では，3種の全てに重複して現われた語が287語ありました。その一部を掲載します。

〈小・中・高に重複して現れた語の例〉

a	any	ball
about	arm	baseball
after	around	be
afternoon	art	bear
again	at	because
all	away	bed
and	baby	big
animal	back	bird . . .

筆者らは指導する語彙を総体としてとらえ，明確な基準に照らして現代社会に必要な語彙を選定し，使える語彙力を獲得するための教室用とICT用教材を作成し実践しています。こうした試行錯誤の積み重ねが，理論と実践を融合させた実効性のある一貫型語彙指導を実現させると考えます。

■主な引用文献

中條清美，西垣知佳子，吉森智大，西岡菜穂子（2007）「小・中・高一貫型英語語彙シラバス開発のための基礎研究」『Language Education & Technology』44，23-42.

中條清美，西垣知佳子，長谷川修治，内山将夫（2008）「『ゆとり教育』時代の高校教科書語彙を考える―1980年代と2000年代の高校英語教科書語彙の比較分析からの考察―」『英語コーパス研究』15，57-79.

（にしがき　ちかこ・千葉大学准教授）

ジーニアス・ファミリー

出発から電子辞書まで

現在，「ジーニアス・ファミリー」の核を構成する辞典は以下の 5 点である。

(1a)『ジーニアス英和辞典〈第 4 版〉』(G4)
(1b)『プラクティカル ジーニアス英和辞典』(PG)
(1c)『ベーシック ジーニアス英和辞典』(BG)
(2) 『ジーニアス英和大辞典』(G 大)
(3) 『ジーニアス和英辞典〈第 2 版〉』(GW2)

書籍版以外に，小社では，(2)の CD-ROM 版，(1a)(3)を 1 枚にした DVD-ROM 版を発行している。

■ジーニアス英和初版

『ジーニアス英和辞典』初版の計画は，1976年ごろに小西友七先生（神戸市外国語大学）に相談を持ちかけたのが始まりだった。小社の月刊誌『英語教育』の Question Box 欄の回答者として信頼を集めていた小西先生に単独で「編集主幹」となっていただき，先生の辞書編集と英語教育の経験のすべてを注ぎこんだ新しい学習辞典を作りたい，ということで話が進んだ。

最初は資料収集（特に用例の収集）から始まり，原稿の執筆と校閲が行われたのは1980〜84年ごろだった。当時ワープロはまだなく，資料収集はカードで行われ，原稿はすべて手書きだった。

組版と校正は84年〜87年で，グーテンベルク以来の金属の活字による組版である。校正刷りには，何人もの先生が検討した色とりどりの文字が入って，関西との間を飛び交った。

刊行前の夏に，事前の宣伝も兼ねて，辞書の名前を公募した。「ジーニアス」という名は 2 人から応募があった。

刊行は1987年11月，話を始めてから足かけ12年かかった。結果的に，コンピュータを使わないで作られた最後の辞書となった。

初版発刊のころは，高校生用には，どちらかというとあまり厚くない辞典が売れていたが，ジーニアスはそこに「重厚長大」な辞典として参入した。高校の先生方にまずお見せしたところ，「さすがに小西先生の辞典，語法の注記が詳しい」「日本人が間違えやすい点への配慮がありがたい」といった評価をいただき，生徒さんに勧めていただけるようになっていった。

■その後の改訂―― G4 へ

初版の 6 年後の1993年12月に『ジーニアス英和辞典〈改訂版〉』(G2) が刊行され，このときからコンピュータ組版になった。コンピュータ組版によって，「データ化」への道が開け，CD-ROM や電子辞書といった形での利用が可能になった。2 色刷になったのはこのときからである。

「第 3 版」(G3) は2001年10月刊行で，その前2001年 4 月に出た『ジーニアス英和大辞典』の成果を取り入れた。このころから，資料としてコーパスを使うようになった。

初版から19年後の2006年12月，語義区分と排列，用例をすべて再検討するなど，これまででいちばん大きな改訂を施した「第 4 版」(G4) が刊行になった。コーパスが全面的に使用され，資料

収集にはインターネットが活躍した。第4版の作業の大詰めの9月に，小西先生が89歳で逝去された。

■高校生用のジーニアス

ジーニアス英和には，その間，「弟分」にあたる辞典が生まれた。

最初は1988年11月刊の『フレッシュ ジーニアス英和辞典』である。これは『ジーニアス英和辞典』の組版を一部再利用して，高校生に必要な語・語義を中心に編集したもので，ジーニアスの翌年に刊行した。『フレッシュ』はその後，1度改訂し，あわせて2色刷版を出した。

これに続く高校生専用の辞典として編集されたのが，1998年の『アクティブ ジーニアス英和辞典』であり，さらにその次の『プラクティカル ジーニアス英和辞典』(2004) である。『プラクティカル』は，兄貴（ジーニアス英和）からはかなり離れ，巻末の「文法のまとめ」との間の連携をはかるなど，高校生・受験生にもっとも使いやすい辞書となっている。

末弟の『ヤング ジーニアス英和辞典』は1991年に「いちばんやさしいジーニアス」として，最初から2色刷で誕生した。「語義の図解」「Q&Aによる解説」「対話用例」の収録で，好評をいただいた。

この後継が『ベーシック ジーニアス英和辞典』で，カナ発音を初めて掲載した。

■大辞典

ジーニアス英和初版刊行から5年ほどの間に，世界ではベルリンの壁の崩壊とドイツ統一，ソ連の解体，EUの発足といった大変動があった。その後インターネットが急速に普及し，英語による大量の情報が世界をかけめぐるようになった。

こうした中で登場した新語・新語義を初め，専門語・俗語など，学習英和辞典の枠を超えるニーズに応えるために，大辞典の編集を行った。

G2（ジーニアス英和改訂版）をベースにして，見出し語を十数万語追加したわけだが，学習辞典とは違う立場での記述が必要なので，ベースの部分もかなりの書き直しをすることになった。また，専門語については諸分野の専門家100名以上に校閲を依頼した。

■和英辞典

『ジーニアス和英辞典』は，英和に10年遅れての刊行となった。この和英初版は，ジーニアス英和に豊富に含まれる「発信用」の語義・用例を日本語で引く，というのが最初の発想だったため，見出しの下に，英和辞典と同様の見出し・訳語・例文が並ぶユニークな構造になっている。小西先生は，これを「ハイブリッド方式」と名付けた。

2003年の「第2版」では，見かけ上かなり「普通の和英」に近い構造にする一方で，用例の追加・入れ替えを行って，内容の充実を図った。

■電子辞書 & MX

1990年代末から，書籍の辞典を丸ごと収録した電子辞書の普及が始まり，辞典の世界は大きく変わった。

ジーニアス英和の電子辞書としては，1997年夏のシャープ機にG2が搭載されたのが最初だった。その後，和英も含めて，カシオ，セイコーインスツル（SII），キヤノンの各社の製品にも搭載されるようになった。英和・和英とも書籍の改訂に合わせて新しい版になっている。

一般用機種には『ジーニアス英和大辞典』が多く搭載され，また中学・高校生用に『ベーシックジーニアス』を収録した機種もある。

その他，書籍では刊行されていないが，G4 / G和英2を基にして小さい液晶画面でも見やすいように編集した『ジーニアス英和MX』『同 和英MX』という辞典もあり，携帯電話やスマートフォン端末で活躍している。

（大修館書店編集部）

英語教師のための発問テクニック

英語授業を活性化するリーディング指導

田中武夫・田中知聡　著

A５判　272pp.
本体2,200円＋税

池野 修

丸ごと一冊「発問」―英語リーディング指導改善の鍵としての「発問」

「教科書本文を読む」という行為は，中学校・高等学校の英語授業における中心的な活動であり，おそらくこれからもそうあり続けるであろう。著者は，そのような英語授業の改善のためには，「発問」を工夫することが鍵になると指摘する。英語リーディング指導に関する書物は数多いが，「発問」という焦点化されたテーマについて様々な角度から掘り下げて検討したものは本書が初めてである。著者が「できる限り多くの発問を収集し，グループ化し，いくつかのカテゴリーに分け，その特徴や発問づくりのプロセスを分析していきました」(p. iv) と述べている通り，本書の中で扱われている発問の種類は極めて多岐に渡り，発問について考察すべき諸課題が詳細に吟味されている。

本書は６つの章から構成されている。最初の３章はいわば発問作成の基礎作業にあたる内容であり，発問の定義と授業における発問の役割（第１章），英文テキストの様々な特徴（e.g. テキストタイプ，パラグラフ構造）に合わせた発問（第２章），生徒の実態把握，指導目標の設定と発問作成（第３章）という内容になっている。引き続く２つの章はおそらく本書の「核」となる部分で，第４章では，リーディング指導を「導入」「理解」「思考」「表現」という４つの段階に分けた上で，それぞれの段階における発問のあり方について考察しており，第５章では，効果的な発問作りの原則や留意点を「本質性を高める」「間接性を高める」「意外性をもたせる」「多様性を引き出す」「偶然性を活かす」の５つに整理して解説している。最終章（第６章）では，発問を中心に組み立てた授業モデルが４つ提示されている。

本書には様々な優れた点があり――特に，発問作成においてキーとなる概念が明示化され，豊富な具体例で例証されていること（囲みで提示された本格的な具体例だけでも全部で43にのぼる），同じ英文を素材にして作った「問題のある発問」（一般によく見られるものも多い）と「優れた発問」が比較されていることなど――読者は「どうすれば効果的な発問を作ることができるのか」について実践的に考察することができるであろう。また，魅力的な構成レイアウト，個々の部分（節，章）と本全体との関係を捉えやすくするための編集上の工夫などのおかげで，本書は本当に「読みやすい（reader-friendly）」本となっている。

メインとなる解説文に加えて，英語教員が発問に関して抱く疑問を取り上げて回答した “Q & A Box”，発問作成に役立つ実践的アイディアを提示した “Idea Bank”，第二言語習得などの研究分野における，発問を考える上で有益な知見について解説した「英語教育コラム」なども効果的に配しており，いわば「多機能」を持った著書でもある。

「発問」に関する包括的な解説が本書には含まれているが，他にも，(i)発問における task authenticity（=「そのテキストを目にしたとき，どのような情報をチェックするのが本来的か」という観点から，そのような情報を対象とした質問を優先的に作る），(ii)読解ストラテジー（reading strategies）の使用を促すための発問，(iii)生徒同士による質問活動（peer questioning）の可能性など，検討に値する内容もあるのかも知れない。また，本書の中にも簡単な解説は見られるが，発問と他のリーディング活動（たとえば mapping，summarizing，retelling などの読後活動）とをどう関係づけてリーディング指導を構成するかについても，本書を手がかりに考えてみたいところである。

『英語教師のための発問テクニック―英語授業を活性化するリーディング指導』は，リーディング指導改善の鍵としての「発問」について総合的に考察した著作であり，本書の中に盛り込まれている多岐に渡る実践的アイディアは，教師の発想を刺激し，新たな実践の創造をも促すであろう。

（いけの　おさむ・愛媛大学准教授）

論理的な英語が書ける本

﨑村耕二　著

A５判　314pp.
本体2,400円＋税

木村友保

「英語活用情報辞典」として常備すべき一冊

読み終わって，「大変バランスのとれた本である」というのが第一印象である。

日本の英語教育現場では「英語を書く」というと，一方に「和文英訳」の世界があり，もう一方に「パラグラフ・ライティング」の世界がある。この本は，どちらにも偏らず，必要に応じて両方が求められるという。また，「パラグラフ・ライティング」では「ポイント文はいつも最初にくる」というワンパターンの押しつけはしない。重要なのは内容であって，修辞的効果をねらえば，後にくることもあるという。「書く英文」の多様性を主張している点が特に気に入った。

結論的にいって，この本を読んだからといってすぐに英語が書けるようになるわけではない。著者自身も「英語を書いてみなければ，そもそもライティングは意味を成さない」と認めている。それにもかかわらず，「自分が担当する大学のゼミ生全員にぜひこれは持たせたい」と強く感じたのは，英文を読む時にはどんなことに気をつけて読むべきか，翻ってそれが今度は英語を書く時にどのように役立つか，第一章から第四章まで，実に丁寧に，しかも自作の英文を織り交ぜながら，著者が的確に説明しているからだ。

「センテンスを書く」（第１章）では「英語表現の基本は，述べたいことの骨格をまず打ち出すこと」「次に求められることは，修飾することである。」（p. 13）と英語の本質的問題を扱う。日本語と英語の比較をしながら，「主語を決める」ことから「英語の句読法」まで，実際的な例文で明快に解説する。

「パラグラフを書く」（第２章）では「パラグラフは，単なる形式的な区分ではない。大切なことは一つ一つのパラグラフに内容のまとまりをつけながら書くことである。特に心がけたいことは，統一性を持たせることである」（p. 60）と英語のパラグラフの意味を明確にしながら，その形式的特徴に関して，トピック文の役割と配置について，そして最後にトピック文の肉付けの仕方を興味深い例文で説明する。

パラグラフの中はどのように発展させていったらよいのか。この問題を扱うのが「整理する」（第３章）である。時間，空間，階層のいずれを基準にするかで，様々な展開法が可能となり，つなぎ語を用いる場合とそうでない場合とでは異なる。このように発展の仕方にも多様性があることを指摘する。

修辞的効果を含む文章展開法は「展開する」（第４章）が扱う。「具体的に述べる」から始まって，「詳しく述べる」手順や「分類・分割する」方法を，また「個別なものへ内容をしぼる」こと，「一般的なものへ内容を広げる」ことが具体的には何を意味するのか，簡潔に説明する。その他，比較・対照，定義，論理的記述，問題提起，視点を深めるなどの方法についても明確な例文で解説する。

実際に英文を書く場合，何を参考にすればよいのか。それを具体的に示したのが「効果的に表現する」（第５章）である。文体やフォーマル，インフォーマルの違いにも触れる。さらに，大学で英文を書く時に何に注意したらよいのか，また大学卒業後にもすぐ役立つように，校正の仕方，ページのレイアウト，文献の引用の仕方，ビジネスレターや案内文の書き方などについては「文書を作成する」（第６章）が実際的な指示をする。

著者によれば，英語教育の現場は，実際に学習者が書き始めるまでの「一定のてがかり」を与えていないという。そのてがかりを提供するのが「書いてみよう」（第７章）と「ライティングに使える英語表現集」（付録）である。

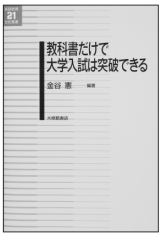
この一冊を常備し，大いに英語を書いてほしい。英語を書くことを実践すればするほど，この本の真価が理解できるはずである。その結果，この本を読む誰もが「論理的な英語が書ける」ようになると思う。

（きむら　ともやす・名古屋外国語大学教授）

教科書だけで大学入試は突破できる

金谷　憲　編著

四六判　236pp.
本体1,800円＋税



山賀淑雄

入試問題分析から英語指導法改善への指針

大学への進学希望者の多い学校に勤務する教師が，生徒に入試を突破できる十分な学力を身に付けさせたいと思うのは当然のことである。そしてその１つの方策として，様々な参考書や問題集を生徒に与えるのが一般的である。このことは，教科書だけでは入試を突破することは容易ではないという考えの表れとも言える。

本書はそのような姿勢に対して，大学入試問題を文法，語彙，分量の観点から広範囲にしかも詳細に分析し，教科書と突き合わせることにより，教科書だけでも十分に入試に対応できることを示した画期的な書物である。

本書は，３つの観点からの分析と高校３年間を見通したカリキュラム編から成り立っている。

まず初めに文法の観点からであるが，2003年から2007年の５年間に及ぶセンター試験，主な国立大学及び私立大学を調査対象とし，延べ360もの大学・学部の入試問題の分析を行っている。対象とする文法項目を63とし，その文法項目が入試問題の中で問われているかどうかを調査している。そしてその結果，10回以上問われている文法項目は上位14位までで，35位以下の項目は１回または０回という驚くべきことがわかった。しかも，その内容は直接文法知識を問うものから間接的に問うものへと近年大きく変化してきており，文法知識を用いた運用力をみる問題が多くなってきていることがわかった。特に難関校と言われる大学にこの傾向が顕著になっている。この分析結果は，教科書で扱う文法項目で入試対策は十分であることを示すとともに，指導内容を単なる穴埋めや並べ替えのレベルから，その文法知識を自分で使えるレベルへと改善していく必要性を示唆しているものと言える。

次に，語彙の観点からであるが，本書では中学校と高校の教科書で扱われる語彙数を算出し，その語彙が入試問題をどのくらいカバーしているかを，難関大学を中心に分析している。その結果，平均カバー率は約95％という非常に高い率となった。本書ではさらに，語彙の推測可能性や配点などから算出した独自の解答可能率という数字を用いて問題の分析を行った結果，75％の大学・学部で解答可能率が70％を超えた。先ほどの文法に加え，語彙の観点からも教科書は大学入試のかなりの部分をカバーしていることがわかる。

３つめは分量の観点からであるが，ここでは単なる英文の総語数の分析にとどまらず，解答時間を考慮した読解スピード，リスニングの読み上げスピード等の分析も行っている。予備校などの分析では通常，総語数と難易度にとどまるが，本書では受験者（解答者）が実際に解答する場面を想定した分析になっている。そしてこの結果から，入試問題の語数は東大を始めとして増加の傾向にあり，wpm 値は100を超える大学も多いことが明らかになっている。中学・高校の教科書を従来型の文法・訳読だけで教えていたのでは，もちろんこのような入試問題に対応はできない。そこで本書では教科書を用いて分量を増やす方法や速読指導法など，質・量ともに変化している入試問題に対応するための具体例が示されている。

以上の３つの観点からの分析に加えて，第５章のカリキュラム編では，現行の教科書を用いて大学入試に対応するために，高校３年間のそれぞれの時期における効果的な指導法が示されている。膨大な問題分析を単なる分析に終わらせることなく，検定教科書が入試問題を十分カバーしていることを示しつつ，さらにこの分析を踏まえ，効果的な英語指導法を提示している点が本書の最も優れている点であると言えるだろう。

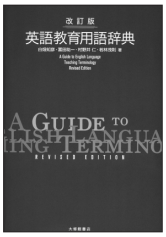
本書は進学指導を行っている英語教師がこれまで漠然と抱いていた入試問題に対するイメージを一新させるとともに，自らの指導法を振り返り，改善を図っていくための貴重な一冊となるだろう。

（やまが　よしお・新潟県立柏崎翔洋中等教育学校教頭）

改訂版　英語教育用語辞典

白畑知彦／冨田祐一／村野井　仁／若林茂則　著

四六判　382pp.
本体2,500円＋税



田中春美

英語教師と英語研究者の必携書

10年前に出版され，好評を博していた辞典の改訂新版で，著者たちによれば，初版の立項項目を再検討して，800余りの項目の一部を削除し，新たに150項目を加えて，総計930項目に増やしたという。また，既存項目についても解説を書き直すなど，かなり大幅な改訂を行なっている。

338頁もある辞書本体――英語の用語をアルファベット順に並べてある――を残らず照合する余裕はないので，サンプルとして初版と改訂版のAの部分を比べてみることにしよう。まず量としては，初版は31頁に対して改訂版は28頁，つまり前者に比べて後者は3頁減っているのである。相互参照（→）の項目を除き，初版の51項目に対し，改訂版は47項目で，4項目減っている。それでは，どのようなものが削除されているかというと，absolute evaluation（絶対評価），acculturation policy（文化的同化政策），active listening（積極的リスニング），affective feedback（情意フィードバック），alphabets（アルファベット），anaphora（照応形），analysis of variance / ANOVA（分散分析），anthropological linguistics（人類（学的）言語学），antonym（反意語），apostrophe（アポストロフィー），appeal for assistance（援助要請），arbitrariness（恣意性）の12項目である。このうち，absolute evaluationのように，上位概念の別項目（criterion referenced evaluation）に相互参照されたものがいくつか，alphabetsやantonymのように，純言語学的なものが少なからずある。これらはほとんど，妥当な削除と言ってよかろう。

次に，初版ではなかったもので，改訂版に新たに加えられた項目として，次の8つがある。すなわち，active vocabulary（表現語彙／使用語彙），approach（教授理論／アプローチ），the Aspect Hypothesis（アスペクト仮説），assessment（測定／アセスメント），attention（注意），attrition（喪失），autonomous learner（自律した学習者／自律的学習者），autonomy（自律）である。このうち，attritionは，初版でlanguage attrition（言語の喪失）としてLの部分に含まれていたから，全く新しいというわけではないが，その説明の仕方は改善されている。それから，削除された項目のほうにもあったが，各項目の日本語訳が／（スラッシュ）を間に入れて，2通り・3通りになることがあり，著者たちが既存の訳語に十分な配慮を加えていることが分かり，好感が持てる。ついでながら，巻末の日本語索引（pp. 364-377）は大いに役立ち，その点も著者たちの配慮に感服している。

続いて，B以降の残りの本体を大ざっぱに見てみると，教授法・シラバス・評価などの語学教育関係の用語，それと関係の深い言語学・応用言語学の用語，著者たちの最も得意とすると思われる第二言語習得（second language acquisiton, SLA）研究の用語など，諸分野の配分にはあまり大きな偏りがなく，妥当なものと感じられた。強いて言えば，語学教育との関わりが薄いと思われる生成文法（generative grammar）の用語がやや多い，という印象を受けている。逆に初版にはなくて改訂版で加えられた項目のうち，例えばSLAのscaffolding（足場掛け）や，1980年代から急速に話題になってきているworld Englishes（世界の英語）などを選んだのは，著者たちの先見的英断と言っておきたい。

いずれにせよ，本辞典は手頃な厚さで，しかも内容が釣り合いよく，簡潔で的確な説明が加えられており，英語教師と英語研究者，およびそれらを目指している大学院生・学部生の諸氏にとって，必携の辞書と思われる。本体と日本語索引の間の引用・参考文献（pp. 341-363）も，適切に選ばれ，とても有益であると感じた。

（たなか　はるみ・南山大学名誉教授）

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆生徒がイキイキし，達成感の持てる授業をするために
英語教師のための発問テクニック
田中武夫・田中知聡＝著
（A5判・272頁・定価2,310円）

◆ビジネス文書やレポート等，まとまりのある英文が書ける
論理的な英語が書ける本
﨑村耕二＝著
（A5判・314頁・定価2,520円）

◆語彙の95.6%は教科書でカバーできる
教科書だけで大学入試は突破できる
金谷 憲＝編著
（四六判・236頁・定価1,890円）

◆波瀾万丈の言葉の放浪記〈オデッセイ〉
シップリー 英語語源辞典
ジョーゼフ・T・シップリー＝著
（A5判・778頁・定価6,300円）

◆気軽に読めて，しっかり身につく
〈クイズ〉英語生活力検定2
小山内 大＝著
（新書判・192頁・定価 798円）　＊定価＝本体価格＋税5％

❍ お知らせ ❍

小社英語教科書についてのご質問，感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D. 教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また，小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿（郵送のみ）をお待ちしております。（採否のご連絡は致しておりません。また，原稿はお返ししません。）

なお，小社ホームページ「燕館」には別館「G.C.D. English Teachers' Room」を設け，小社教科書の内容をご案内しているほか，英語の先生方に役立つ様々な情報を提供しております。ぜひご活用ください。

http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/

◈営 業 便 り◈

▶来年度お使いいただきます弊社発行教科書のご注文が，全国各地より私どもに送られてまいりました。今回も数多くのご採択をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。教科書や指導書に対するご意見等，弊社編集部もしくは営業担当者まで何なりとお聞かせいただけたらと存じます。

▶1972年4月に創刊以来38年間近くにわたりご支援いただいておりました雑誌『言語』が，本年12月号をもちまして休刊することになりました。読者の皆様に厚く御礼申し上げます。『英語青年』（研究社），そして月刊『言語』と休刊が続き，「ことば」を扱う出版社としては寂しい限りです。

▶『7歳から「辞書」を引いて頭をきたえる』（すばる舎）というタイトルの本が売れています。そのことと連動して，国語辞典を積極的に活用されている小学校の授業風景がよく映像として流されています。その子どもたちが高校生になった時，電子辞書と紙の辞書のどちらを使うのでしょうか。

◇編 集 後 記◇

▶ DVDで久しぶりにBack to the Future（1985）を見ました。アメリカの高校生・マーティが，親友・ブラウン博士の発明したタイムマシンで，30年前にタイムスリップするというSF映画です。

▶50年代に到着したマーティが，呆れても "heavy"，驚いても "heavy" と85年当時の流行語を連発するので，タイムスリップ先のブラウン博士は，"Why are things so heavy in the future? Is there a problem with the Earth's gravitational pull?" と訝しがります。

▶何でも "cool" で済ませる現代の高校生がブラウン博士に遭遇したら，「地球の気温に異常でも起きたのか」と言い当てられてしまう（？）かも知れませんね。

▶今号の特集は「英語の語彙」。小社では「ジーニアス」シリーズの辞典，『改訂新版ジーニアス英単語2200』をはじめ，読んで楽しい『シップリー英語語源辞典』，好評シリーズの第2弾『英語生活力検定2』等，英語の語彙を楽しめるラインアップを揃え，さまざまな言葉との新たな出会いをお手伝いできれば，と願っております。（穂）

Genius・Captain・Departure
英 語 通 信
第46号
2009年11月25日発行
（年2回発行）
［出版情報］http://www.taishukan.co.jp

編集人　©「G.C.D. 英語通信」編集部
発行人　鈴木一行
発行所　株式会社 大修館書店
101-8466　東京都千代田区神田錦町3-24
Tel.（03）3294-2357（編集部）／（03）3295-6231（販売部）
振替 00190-7-40504　印刷・製本 文唱堂印刷株式会社